モルドバの対日ワイン輸出額、2025年に150万ドル 2017年の約4倍に

アジア向け総額970万ドルのうち、日本は中国に次ぐモルドバ産ワインの第3位市場に

2026年11月10日（火）



Logos　Pressが11月10日火曜日に発表した、モルドバ政府広報室の情報に基づく統計によると、2025年のモルドバから日本へのワイン輸出額は150万ドルとなり、2017年の水準の約4倍に達した。

統計は、市場規模そのものは依然小さいものの、アジアでモルドバ産ワインの輸出先として日本の存在感が増していることを示している。同じ統計によると、2025年のモルドバのアジア向けワイン輸出量は330万リットル、総額は970万ドルだった。

アジア向け輸出額では、日本はモルドバ産ワインの市場として第3位だった。中国は2025年の輸出

額が300万ドルで、引き続きモルドバにとってアジア最大の市場となった。続く韓国向けの輸出額は40万ドルで、報告書によると2017年の3.5倍に当たる。

これらの数字は、モルドバが従来の市場以外への販売拡大と、アジアでの地位強化に取り組んでいることを示している。報告書が2017年との比較を示していることから、2025年の対日輸出額は短期的な急増というより、数年にわたる着実な伸びを示唆している。

報告書は2017年の日本向けワイン輸出額を明らかにしておらず、2025年の実績がほぼ4倍になったと述べるにとどまった。比較の起点となる金額が公表されていないため、入手可能な情報だけでは期間中の正確な増加額を算出できない。

Logos Pressを通じて公表された統計には、日本向けだけの輸出量は含まれていなかった。報告書が示したのは地域全体の輸出量と金額、および一部の国別輸出額のみで、製品カテゴリーや価格の詳細、瓶詰めワインとバルクワインの内訳も公表されていない。

それでも、この数字からは、日本が数年前に比べてモルドバの生産者にとって重要な販路になっていることがうかがえる。2025年の対日輸出額は150万ドルで、モルドバのアジア向けワイン販売の中で一定の割合を占めたが、中国には大きく及ばなかった。

モルドバにとって、この成長が重要なのは、ワインが同国を代表する輸出品の一つだからだ。ワイン産業は長年、海外市場に依存してきた。生産者は欧州、アジアなどで顧客基盤を広げようと取り組んできた。日本のような市場への進出は、国内市場が比較的小さいモルドバにとって、とりわけ少数の輸出先への依存を減らす一助となる可能性がある。

日本は、消費需要の安定性や強固な輸入部門、高付加価値商品を好む傾向から、世界のワイン取引で注目される市場でもある。大規模な輸出先と比べて販売額が小さくても、日本で足場を広げることは、知名度向上や収益源の多様化を目指す生産者にとって重要になり得る。

11月10日に公表された数字は2025年の取引に関するもので、2026年の出荷を示すものではない。Logos Pressによると、情報はモルドバ政府広報室から提供された。報告書は、アジア市場がモルドバのワイン輸出戦略で存在感を増しており、日本も同地域における重要な輸出先の一つとして台頭していることを示す数字として紹介した。